



鴨都波神社本殿―御所市の宮前町で



(住所) 御所市(宮前町) 513
 (祭神) 積羽八重事代主命
 下照比売命、建御名方命
 (文化財) ススキ提灯献灯行事は県
 (交通) 無形民俗文化財
 近鉄・JR御所駅から徒歩
 約10分。無料駐車場約20台
 (電話) 0745・62・2176

鴨都波神社 (御所市)

近鉄・JR御所駅の南に位置する鴨都波神社は、古事記に記される国譲りの神、大国主命の子、積羽八重事代主命を主祭神として、第十代崇神天皇の御代に創建されたと伝わります。

事代主命はこの地を本拠としていた古代豪族の鴨氏が崇拜していた神で



御所市内の高鴨神社

大国主命の子が主祭神

が整いました。境内から広がる弥生時代中期の「鴨都波遺跡」からは、農具や住居跡が多数発見され、鴨氏は早い時期から水稻耕作を始めたなど、先進的な氏族であったようです。

右に主祭神の父神を祭る三輪社・出雲社が再興される「ススキ提灯献灯行事」は、五穀豊稔を

願い江戸中期に始まったとされ、上から2・4・4張り3段の提灯を稲穂に見立て、30基余りの提灯が奉納されます。

町名(大字名)がなく、同社も「同市513番地」が正式な住所です。地元民は番地で場所がわかりますが、配送業者などの便宜のため、通称名をつけているそうです。

(奈良まほろばソムリエの会会員 小林誠一)